



豪州準備銀行は量的緩和策の延長を決定

- 豪州準備銀行(RBA)は2月2日の理事会で、政策金利と3年国債利回りの誘導目標を0.10%で据え置く決定を下す。
- RBAは現行の国債買い入れ策の終了後も、追加で1,000億豪ドル相当の国債買い入れを実施へ(量的緩和を延長)。
- RBAは豪州景気の回復が継続するとの見通しを示す。豪州のGDPは年央までにコロナ前の水準を取り戻す見込み。
- 積極的な財政・金融緩和策の効果から住宅市場の回復が顕著。今後は豪州景気の回復の持続性が焦点に。

豪州準備銀行は量的緩和策の延長を決定

豪州準備銀行(RBA)は2月2日、政策金利と豪3年国債利回りの誘導目標の据え置きを決定を下しました(図1)。

また、RBAは4月中旬に現行の国債買い入れプログラム(総額1,000億豪ドル)が終了した後も、追加で1,000億豪ドル相当の国債および州政府債を購入する方針を示しました。RBAが量的緩和策の延長措置を決定したことで、早期のテーパリング(量的緩和縮小)の可能性が後退し、今後の豪州国債市場の安定に繋がると期待されます。

豪3年国債利回りはRBAのイールドカーブ・コントロール(流通市場での国債買い入れを通じて利回りを低く誘導)により低水準での推移が続く一方、米金利上昇の影響から中長期の国債利回りは切り上がる傾向にあります。

豪州のGDPは年央までにコロナ前の水準を回復へ

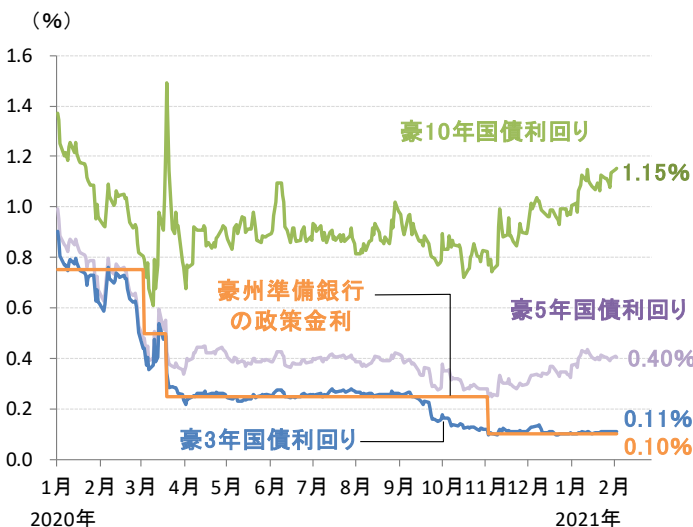
今回のRBA理事会の声明文で示された景気見通しは、足元までの豪州景気の底堅い回復が今後も継続する見込みというものでした。具体的には、RBAの中心シナリオでは2021年から2022年にかけて豪州の実質GDPは年率3.5%のペースで成長すると予想されています。この見通しの下では、2021年央までにGDPの水準がコロナ前の2019年末の水準を取り戻すと見込まれています。

今後は豪州景気の回復の持続性が焦点に

また、足元の豪州景気の中でも、積極的な財政・金融緩和策の効果から住宅市場の回復が顕著となっています。

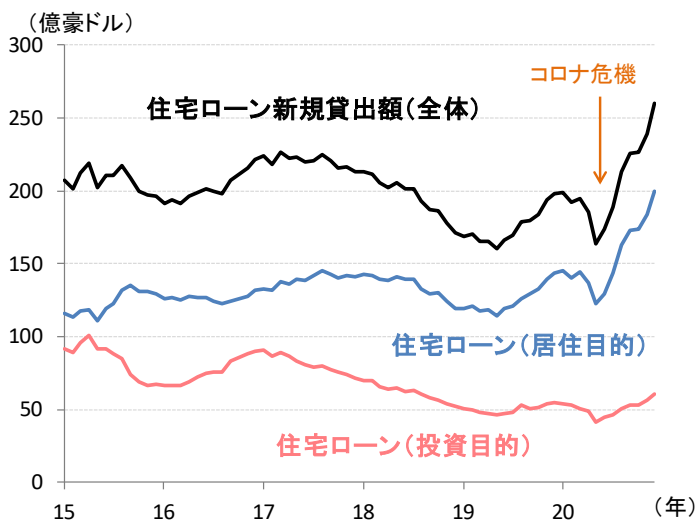
豪州の住宅ローンの新規貸出額は居住目的の実需主導で2020年12月には統計開始来の最高額を更新しました(図2)。今後は豪州政府によるコロナ対応の財政支援策が徐々に縮小に向かう中、豪州景気が自律的な回復基調を維持できるかに焦点が集まりそうです。

図1: 豪州準備銀行(RBA)の政策金利と国債利回り



(出所)RBA、ブルームバーグ
(期間)2020年1月1日~2021年2月2日

図2: 豪州の住宅ローン新規貸出額の推移



(出所)豪州政府統計局 (期間)2015年1月~2020年12月
(注)リファイナンス(借り換え)を除く。季節調整済。

●当資料は、説明資料としてレグ・メイソン・アセット・マネジメント株式会社(以下「当社」)が作成した資料です。●当資料は、当社が各種データに基づいて作成したものです。その情報の確実性、完結性を保証するものではありません。●当資料に記載された過去の成績は、将来の成績を予測あるいは保証するものではありません。また記載されている見解、目標等は、将来の成果を保証するものではなく、また予告なく変更されることがあります。●この書面及びここに記載された情報・商品に関する権利は当社に帰属します。したがって、当社の書面による同意なくして、その全部もしくは一部を複製し又その他の方法で配布することはご遠慮ください。●当資料は情報提供を目的としてのみ作成されたもので、証券の売買の勧誘を目的としたものではありません。●レグ・メイソン・アセット・マネジメント株式会社(金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第417号)はフランクリン・リソース・インク傘下の資産運用会社です。